

宝くじ活性化検討会報告書のポイント

宝くじ、いま新展開のとき ～夢おこしを社会貢献に～

- 宝くじは、60年以上にわたり、国民に「夢」や「楽しみ」を提供し、国民の健全な娯楽として発展し、社会に貢献。
- しかし、近年は、宝くじの売上額が低迷し、その要因としてICTへの対応の遅れなどの構造的な問題が存在。
- 発売団体、受託金融機関等、総務省が、本報告書を踏まえ、それぞれ危機意識を持って、抜本的な改革を進めていくよう求める。

1 活性化に当たっての基本的考え方

- (1) 国民に夢を与え社会に貢献し、幅広い世代が楽しめる宝くじ
 - ① 「宝くじを買うことが社会貢献につながる」、「宝くじを買うことがカッコいい」という新しいイメージを打ち出すべき
 - ② スマートフォン等で情報を得る若年層向けや女性向けといったターゲットを明確にした商品の導入
- (2) 消費者ニーズに立脚した改革
 - ① 宝くじ運営に当たっては、競争性及びビジネス感覚を一層重視した意識改革が必要
 - ② 民間人等の専門家の力の活用、売上目標・運営計画の設定などにより、発売団体のガバナンスを強化

2 消費者の利便性向上及び販売チャネルの拡充

- (1) インターネット販売
 - ① インターネット販売を早期に導入すべき
 - ② インターネット専用新商品の開発で、宝くじの新境地を切り拓くべき
 - ③ コストや事務の負担軽減のため、電磁的記録化を可能に(法律改正)
- (2) コンビニエンスストア販売
 - ① マルチメディア端末やATMで購入できるようにすることが望ましい
- (3) 対面販売チャネル及びATM販売網の充実

3 運営全般にわたる競争性・効率性の確保

- (1) 発売団体が自ら発売等の事務を実施するか又は分割して発注することもできる仕組みに(法律改正)
- (2) 許可手続を3ヶ月単位から1年単位に改め、新規参入を促す
- (3) 緊急に発売する場合の受託機関募集公告期間を短縮(法律改正)

4 宝くじの魅力の向上

- (1) マーケティング戦略の強化
 - ① 商品開発・宣伝広告等のための民間人等の専門家の力の活用
 - ② 多数の民間事業者による企画競争入札、訴求対象者の明確化、インターネットを含め広告メディアを多様化
- (2) 魅力的なくじの提供
 - ① 当せん金の最高倍率の引き上げ(法律改正)
 - ② 当たりやすいくじの開発
 - ③ 遊び心のあるくじ(例:スマートフォンで気軽に楽しめるくじ)の開発
- (3) 収益金使途・社会貢献のPR
 - ① 収益金使途のPRにより、公益性や社会貢献的性格の理解を促進
 - ② 収益金の使途を明確にしたくじ(例:子育てドリームチケット)の拡大
- (4) 宝くじのイメージアップ戦略の展開
 - ① 民間企業等との連携、宝くじファン等の会員制度の創設等